

新型コロナウイルスワクチン（Pfizer 社 コミナティ筋注） の接種を受ける医療従事者のみなさまへ

～ ワクチンの副反応 および ワクチンの効果について ～

グラフの出典 p. 1～3

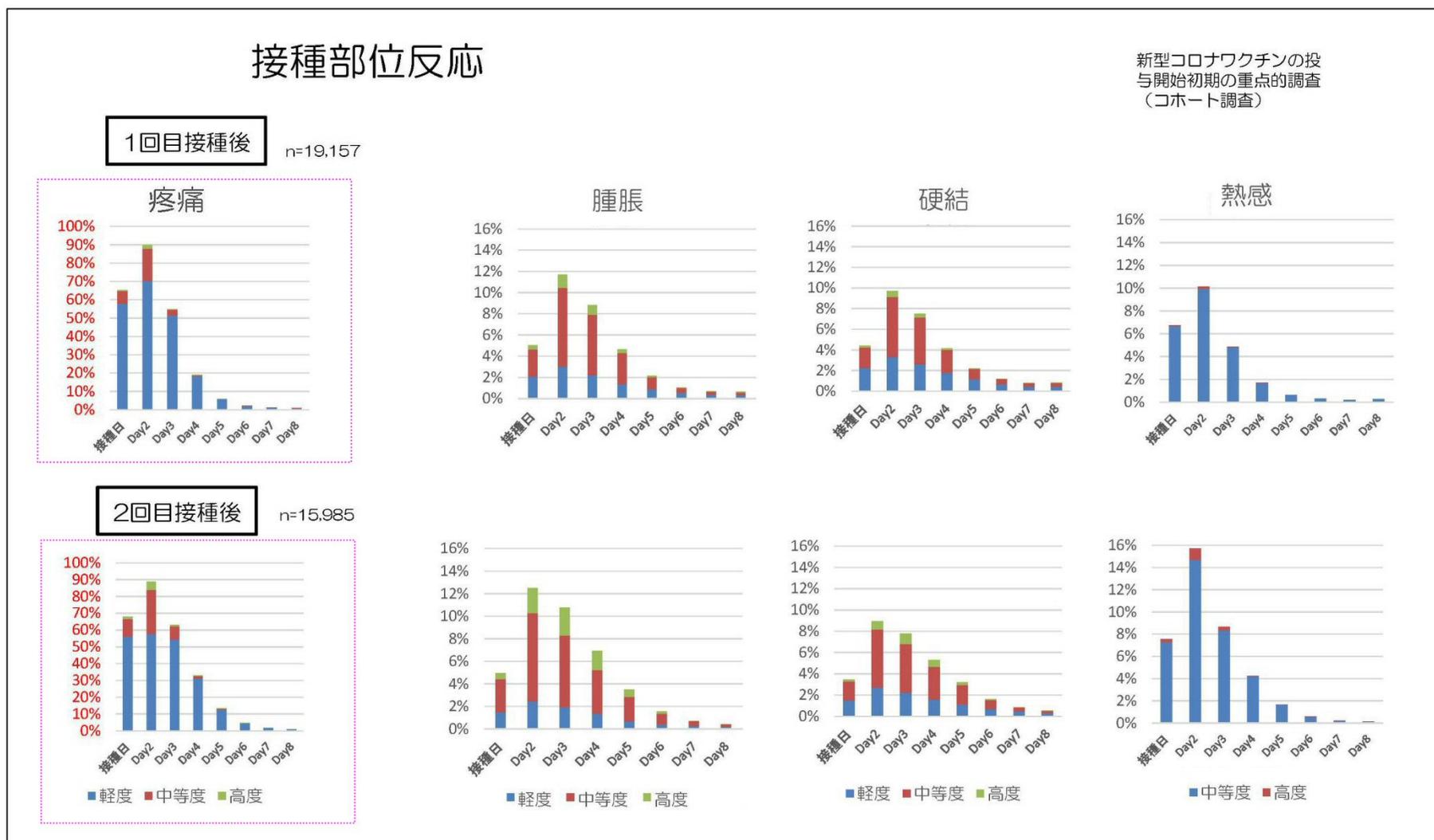
厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会（2021/4/9）
資料2：新型コロナウイルスの投与開始初期の重点的調査（コホート）
-健康観察日誌集計の中間報告(3)-（順天堂大学コロナワクチン研究事務局作成）

p. 4

「Safety and Efficacy of the BNT162b2 mRNA Covid-19 Vaccine」 fig.3
(Fernando P. Polack et al. N Engl J Med 2020; 383:2603-2615)

以下は本年2月からの日本国内での先行接種におけるデータです。

このワクチンの副反応で、しばしば見られるのは「接種部位の局所反応」です。特に「打った場所の痛み」は、かなり高率に見られます。接種日から数日間は腕に強い負荷のかかる仕事や運動は控えていただくのがよいと思われます。

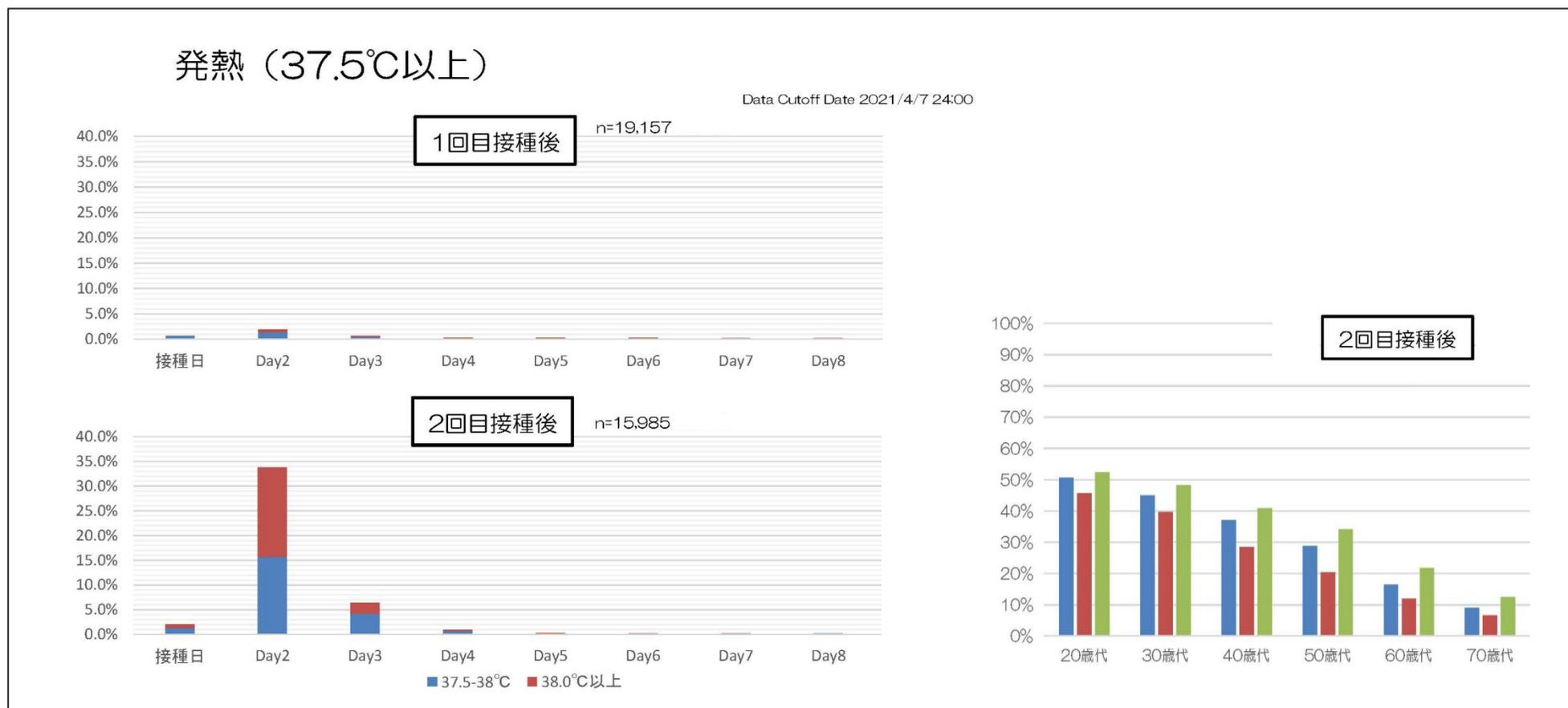


同様に本年2月からの日本国内での先行接種におけるデータです。

全身性の副反応で、他のワクチンに比較して頻度が高いのが「発熱」です。海外では38度以上を発熱としたデータが多く、37.5度以上をカウントする日本の統計では海外よりパーセンテージが上がっています。

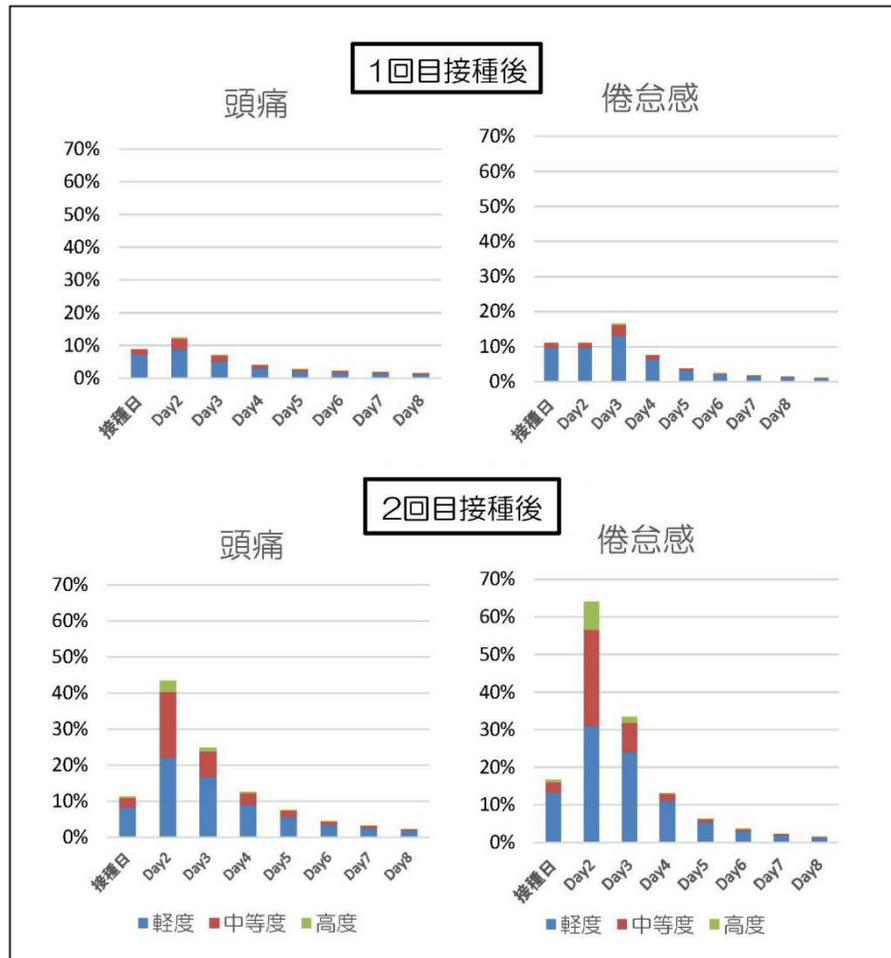
特に2回目接種での若い世代に発熱の頻度が高い傾向にあるようです。

接種の翌日には大事な仕事や予定は入れないほうが無難だと考えられます。



頭痛や倦怠感も2回目接種後のほうが頻度が高い傾向です。右下は例年のインフルエンザワクチン接種後との比較です。こちらは成人1回接種なので単純比較は難しいですが、新型コロナのワクチンは「注射部位の痛み」と「2回目での頭痛・発熱・倦怠感」が生じる割合が高いようです。

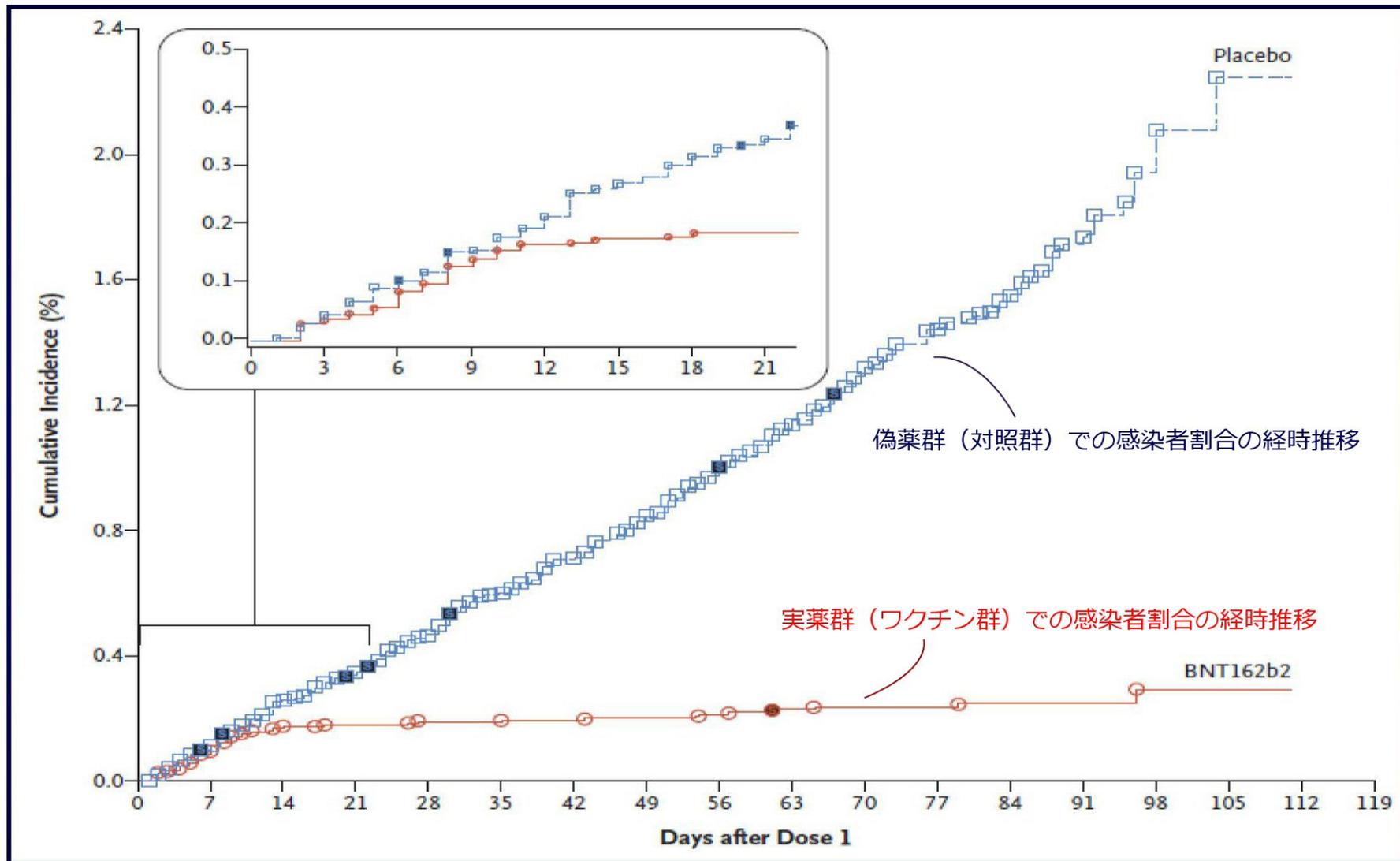
痛みや熱が辛いとき、（市販薬も含め）消炎解熱鎮痛薬を服用しても効果には影響がないとされていますので、必要に応じて使用してもよいと考えられます。



インフルエンザワクチンとの比較

	コロナティ筋注 先行接種 2021年 (NHO,JCHO,JOHAS)		インフルエンザワクチン 皮下注 2009年 (NHO)	
	1回目	2回目	22,112例	
発熱 (37.5℃以上)	3.3%	38.1%	発熱 (37.5℃以上)	3.1%
発熱 (38℃以上)	0.9%	21.0%		
接種部位反応	92.9%	92.4%	接種部位反応	69.9%
発赤	14.0%	16.4%	発赤	60.1%
疼痛	92.3%	91.1%	疼痛	43.8%
腫脹	12.6%	14.2%	腫脹	36.0%
熱感	12.9%	18.7%	熱感	28.2%
かゆみ	8.0%	12.1%	かゆみ	6.7%
全身症状	35.8%	73.7%	全身症状	26.7%
倦怠感	23.2%	69.3%	倦怠感	19.0%
頭痛	21.2%	53.6%	頭痛	14.1%

ワクチンの効果は すぐには現れません (海外データでは約2週間かかるとされています)



当面のあいだは、いままで通りの感染予防対策をお願いします